



戦中の「お仏壇」の風景

昭和17年生まれの私が幼い頃、わが家の仏壇の花瓶や蝋燭立て、香炉などは陶器でした。

水漏れする花瓶の代用に父は竹筒で花立てを作り、お鈴の座布団は母が着物の端布で縫ったものでした。朝夕、祖父が打ち鳴らしていたお鈴は何製だったのか、「カン」と音がしました。祖母が厚紙を丸く切って竹の把手を付けた小さなうちわでロウソクの火を消しま

した。家の中の金属類は仏具にいたるまで供出し、農作業にかけがえのない牛も出征しました。

私はカリカリに乾いたお仏飯が大好きでした。線香の匂いがするおさがりは、仏さまの匂いだと思っていました。幼い私はその状況を理解できていなかったけれど、今になって祖父母や両親の苦労が偲ばれます。

(広島市佐伯区・油野称光
73歳)